

## 令和7年度第4回一関市図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第4回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和8年3月18日（水）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関図書館1階学習室
- 4 出席者
  - (1) 委員 二階堂美恵委員、都澤喜久子委員、金安信委員、菅原夏希委員、鈴木宏委員、玉澤万里子委員、門田真奈美委員、菅原慶子委員、吉瀬献策委員、岩本智美委員、那須照市委員(会長)、千葉哲夫委員
  - ※欠席者 佐々木伸也委員、岩越裕史委員、鈴木純香委員、阿部利彦委員
  - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、八重樫裕之花泉図書館長、佐藤和子大東図書館長、千葉浩千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、小野寺晃一室根図書館長、菅原春彦川崎図書館長、佐藤詠一藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、小野寺香代一関図書館副館長兼資料サービス係長
- 5 議 題
  - (1) 令和7年度一関市立図書館事業報告（進捗状況）について
  - (2) 令和8年度事業計画の策定について（諮問事項）
  - (3) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名
- 8 挨拶
  - (1) 時枝教育長

本年度は、令和8年度から17年度まで10年間の市の総合計画が策定され、教育振興基本計画についても同じ期間で策定したところである。

例年、本協議会は年に2回開催しているが、先ほどお話した両計画と期間を同じとする図書館振興計画の策定のため、本年度は計4回開催させていただいた。

委員の皆様には、図書館振興計画の策定において御意見、ご助言をいただいたことに感謝申し上げます。市民に開かれた学びと交流をはぐくむ図書館の将来像について、内部だけでなく外部のご意見をいただき策定していくプロセスが大変重要であった。

上位計画の教育振興基本計画では、学校教育に関わり沢山の方向性が定められているが、その中にキャリア教育を掲げている。単に小学校から中学校、高校に進む、ということのみならず、自分の地域を知り、その上で目標を持って自分の道を進むということをイメージしている。キャリア教育や学力など多方面のことを考えたときに必要となるのは様々な学びであり、その学びにおいて必要なのは図書であり、市立図書館の充実とともに学校図書館を重視するため、読書普及員を来年度も配置することとしている。

市立図書館は図書館振興計画の中にも、教育振興基本計画にも掲げるとおり、市の教育委員会としては重視している。子どもたちを支える拠点でもあり、市民の生涯学習を支えていく拠点でもあることから、これらの計画を策定できたことは本当にありがたいことであったと思っている。

一関市立図書館では、人口減少が続く中であっても蔵書が多く、同規模自治体の中では全国1位を今のところもキープしている。

市民の方へのサービス向上の観点から、8館の図書館がそれぞれ移動図書館により市内全域へ本を届ける取組を来年度も広げていこうと考えている。

来年度は教育振興基本計画、図書館振興計画の推進にあたり最初の年度になることから、実効性のあるものにしていくという点で非常に重要な年度であると考えている。

本日は来年度の事業計画の諮問もあるので、多くの議論をいただき、御意見を基にしながら、よりよい図書館運営に努めてまいりたい。

## (2) 那須照市会長

例年であれば年2回の開催であるが、本年度は2回追加し計4回協議会を開催し、皆さんに本当に御協議いただいた。その御労苦に対して心より感謝申し上げます。

今回は、今年度の利用状況と事業に関わる進捗状況報告のほか、新たな振興計画の初年度となる来年度の事業計画に関して協議をいただくので、是非忌憚のない御意見を願います。

## 9 諮 問

一関図書館長より会長に対し、図書館法第14条第2項及び一関市図書館条例施行規則第16条の規定により、令和8年度事業計画の策定について諮問した。

## 10 審議内容

- (1) 令和7年度一関市立図書館事業報告（進捗状況）について  
資料に基づき事務局から説明を行った。質問、意見なし。
- (2) 令和8年度事業計画の策定について（諮問事項）

資料に基づき事務局から説明を行った。以下質疑応答等。

委員 前回の会議の際、室根地域の移動図書館の利用について、もう1回試行運転を増やした方がいいのではないかと話をさせていただいた。そのとおり実施していただいたことに感謝申し上げる。

室根地域では、今年室根大祭がある。室根に限らず、市内各地域の郷土愛を理解できるよう、各地域のお祭りや文化などを巡回図書や企画展で回せたらいいのではないかと思った。

事務局 郷土資料を積載している移動図書館車もあるので、地域を巡回させていただければと思う。また、前回の室根大祭の時にはその企画展を開催しており、今回もできるかどうか、検討している。

委員 各地域の運営協議会の会議録を見ると、共通して出ている意見が「これだけたくさん企画をどうやっていつも実施しているのか」というもの。非常に活発な印象を受けた。

こちらはサービスの提供を受ける側であるが、たまには企画を利用者の側から持ち込んで実施する、というのがあってもいいのではと感じた。

また、最近個人的な関心は、世の中のAIの普及で、本当にAIがどんどん身近になってきていると感じる。図書館とAIは対極にあるような気がするが、図書館の機能の中にもきっとAIは入ってくるのであろうと思う。令和8年度の事業に、AIに対してどのように関わっていくか、どう距離を取るかというところに踏み込んでもいいのではないかと感じた。

事務局 新たな図書館振興計画の「学びの成果を挑戦につなげる図書館」の中の「各種講座の開催」において、図書館の講座を受講した方々が自ら企画して活動を行うことを期待するような形で表現しているとこ

ろ。

また、A Iについては、令和8年度予算で図書館情報システムの更新を計画しており、その中でA Iによる本のおすすめの機能を組み込む仕様を組んでいるところ。この場合、基本的な探索はA Iで行い、図書館の職員はより高度な調べものに特化してサービスを提供できる。

委員 利用者による展示、講座の回数の目標指標に関して、各運営協議会でも具体的に取組に関する提案の意見が出ている。市民利用者による展示会・講座が定着するまでは、図書館から声掛けをしなければならないと思うが、図書館運営協議会の皆さんも、いろいろなことをご存じであることから活用できるのではないか。お知らせすることでお役に立てるのではないかと思った。

事務局 図書館でもいろいろな展示を行っており、A図書館で行ったものをB図書館でも同じ展示を行う、という形で増やすのだが、運営協議会員様からも協力していただき、企画を提案していただくのは「市民と共に成長する図書館」につながることから、非常にありがたく思っている。

委員 当方の運営協議会で怖いお話をやってみたいという方の話があった。当地域には立派なホールがあるのだがそこでは敷居が高いことから、市民センターの一部屋を利用して実施させてもらい、そこからスタートして、若い人のやってみたいことの実現を図書館で応援していくのはどうかというお話が出ていた。

他にも、若い方で、やりたいことがある方がまだたくさんいると思うので、口コミもいいのだが、繋がりがある人だけに限られてしまうので、図書館から「何かやりたいことがあればお手伝いします」というように、公募してもらえたら、もっと出てくるのではないか。

委員 教育現場の立場からは、素晴らしいと思って計画を拝見させていただいている。学校図書館や学校との連携をこのように考えていただいて、計画にも盛り込んでいただいた。

委員 各図書館運営協議会の会議録を読ませていただき、大変参考になることが沢山あり、図書館への来館について、大人にどのように働きかけるか考えた。

また、小中学校へどのように働きかけるかということについても良

いアイデアが出されていた。

読書離れと言われていたが、子どもだけでなく大人も離れていのではないかと思う。または大人が本を読んでいる姿を子どもも忙しくて見ていない。一体どういうふうにしていけばいいかと思った。

そのような中で、私自身が花泉図書館の中で参加して面白かった読書会がある。読書会というと、立派な物語を読まなければだめだという意識があったのだが、その読書会は料理から難しい本までいろいろな分野があった。テーマを決めないやり方もあるのでは、と思った。

また、自分は月1回、一関図書館で朗読会をさせていただいているが、3月の朗読会には19人も集まっていた。大人のための朗読会で、大変本を楽しんでくださった。

大人が本を取るきっかけみたいなものがどこかにあればいいと思っている。図書館スタッフの方たちも、関わっているボランティアの方たちも本当に一生懸命様々な企画をしていることが会議録の中に沢山見られる。それがもっと生きるような形でできないか。大人、子ども両方に呼びかけていくような取組が必要と考える。

事務局 一関図書館において、グループの皆様が自主的に「一読会」という名称をつけ、隔月第3土曜日に読書会を開催しており、直近では21日午後に読書会を開催予定。どなたでも参加ができ、いろいろな本に触れることができる。料理の本や、身近な本を参加者が持ち寄り、それぞれ読んだ本を紹介する。気軽に参加していただけるよう、図書館もPRし、少しでも機会を多く提供できればいいと考えている。

委員 各図書館がそれぞれ特色ある企画を実施しているということは、一関市内の図書館の面白さであると思う。自分の住んでいる地域の図書館にしか行ってはいけないような気がしている人も多いと思う。市内の図書館を巡り歩くというようなことが利用者の意識の中に芽生えると面白い取組になるのではないか。

先日、多賀城の図書館に行ってきたのだが、あちらは官民一体になって運営されている。いろいろなところで、様々な取組が行われているのだと感じた。他の事例を吸収して真似して作り上げていくのも面白い。

委員 安心、安全な場所の提供、という観点から、施設の危険箇所の早急

な改修をお願いしたい、ということが本音。

事務局 千厩図書館については、2階の図書の除籍を適正に行い、少しでも建物にかかる荷重を減らしている、というのが現在の進捗状況である。

これにより、安心度が一昨年、昨年に比べ高まっている。建物の改修については、市の建築技師と話し合い、将来どのようにしていけばいいのかということを検討している最中である。

委員 自分の所属機関では就労支援を行っており、一関図書館に職場体験希望者を受け入れていただいている。図書館で職場体験を行うと、スムーズに就職が決まっていく傾向がある。しかし、いろいろな地域から体験希望者が来ており、図書館で職場体験を行いたいが一関では遠い、という方もいるので、もし可能であれば他の図書館でもご協力をいただけると大変助かる。

委員 図書館において様々な取組を行っており、これだけ多くの入館者、貸出しがあることが意外であり、図書館のイメージというか、図書館の利用の仕方や機能が変わってきている、ということを実感している。

1点思ったのは、やはり図書館は本を手にとって読む場所という原点ということ考えたとき、そこに行きたくなるような図書館、例えば遠野には有名な建築家がデザインしたという図書館があるが、外観から魅力があり、入館すると壁面の1面に本が並べられている。利用者は「自分の必要な情報は…」ということ抜きにしてパッとタイトルを見てダイレクトに本に触わり、そこから文字を拾っていく。本に接することができるという醍醐味がダイレクトに感じられ、読書を楽しむ空間というのが実現できたら面白い。情報というのは、スマホを見れば本当に充分に取ることができるので、あらゆる情報が資料として網羅されているのでなくとも、少し期待できるようなところがあれば素晴らしい。

委員 移動図書館車の運行については、無理のないようにお願いしたい。積雪が多い場合は、今年のようにスムーズには進まないと思う。予算、人員など要求すべきところは要求してほしい。

郷土資料について、それを活用している地域の方々の中で敏感になる部分があり、除籍については、増えていったからとか古くなっているからといってむやみやたらに除籍するのではなく、きちんと吟味して

行ってほしい。こちらについては運営協議会の中で説明もあったので、よろしく願います。

もう一つは「禁帯出」が多すぎる、という話題が出てくる。同じ市立でも別の図書館だと少ない、という話がある。どんどん皆さんに見てほしい、読んでほしいということで寄贈されている本は禁帯出を外してもいいのではないかと、という意見があった。何でも禁帯出にしているわけではないのだが、少し緩くしてもらえればと思い、検討をお願いしたい。

事務局 移動図書館車のことについては、無理のないように計画し実施していく。禁帯出のことについては、資料は、資料収集方針に基づき収集し、保存しているところであるが、禁帯出の資料はその中でも貴重な資料、市立図書館の中でもこの1冊しかないとか、一関市にしかないとかいう、どうしても貴重な資料については禁帯出としている。ただ基本的にはなるべく貸出しを行い、利用していただくことができるよう資料を整理していきたい。

委員 前回の運営協議会でも話題になったが、移動図書館車が来てもわからないことから、音楽を流せないか、という話が出た。街中では難しいと思うが、田舎では可能ではないか。アンケートでも取っていただき、流していい場所があれば宣伝効果もあるのではないかと。

事務局 音楽を流していいところとそうでないところを区分けしながらできる限り周知に努める。

### (3) その他

事務局から、令和8年度の市予算（図書館資料整備事業費）及び休館日について説明を行った。

## 11 担当課 一関図書館